

## 4. 地域や社会への参画

---

ここからは、「地域や社会への参画」をテーマとした質問項目について記載しています。

問	項目	質問文の概要
4-1	地域や社会への貢献意欲	・お住まいの地域や社会のために役に立ちたいと思いますか。
4-2	近所づきあい	・次のア、イ、ウにあてはまるご近所の方の人数をお答えください。 ア 生活面で協力しあっている人 イ 立ち話程度のつきあいの人 ウ あいさつ程度のつきあいの人
4-3	地域活動の参加度合い	・次のような活動に参加されていますか。 ア 町内会、自治会の活動 イ スポーツ・趣味・娯楽活動 ウ 市民・ボランティア・NPO 活動 エ その他の地縁活動
4-4	地域の住みやすさ	・現在お住まいの地域は住みやすいですか。
4-5	男女の役割分担意識	・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。
4-6	女性就労に対する考え方	・女性が働く（収入のある仕事をする）ことについて、どう思いますか。
4-7	家事や育児、介護の時間	・1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。

**問4 - 1** あなたは、お住まいの地域や社会のために役に立ちたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。( は1つだけ)

**【地域や社会への貢献意欲】**

住んでいる地域や社会のために役立ちたいと思うか質問したところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した「肯定的回答」の割合が70.0%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した「否定的回答」の割合(14.8%)より55.2ポイント高くなっています。

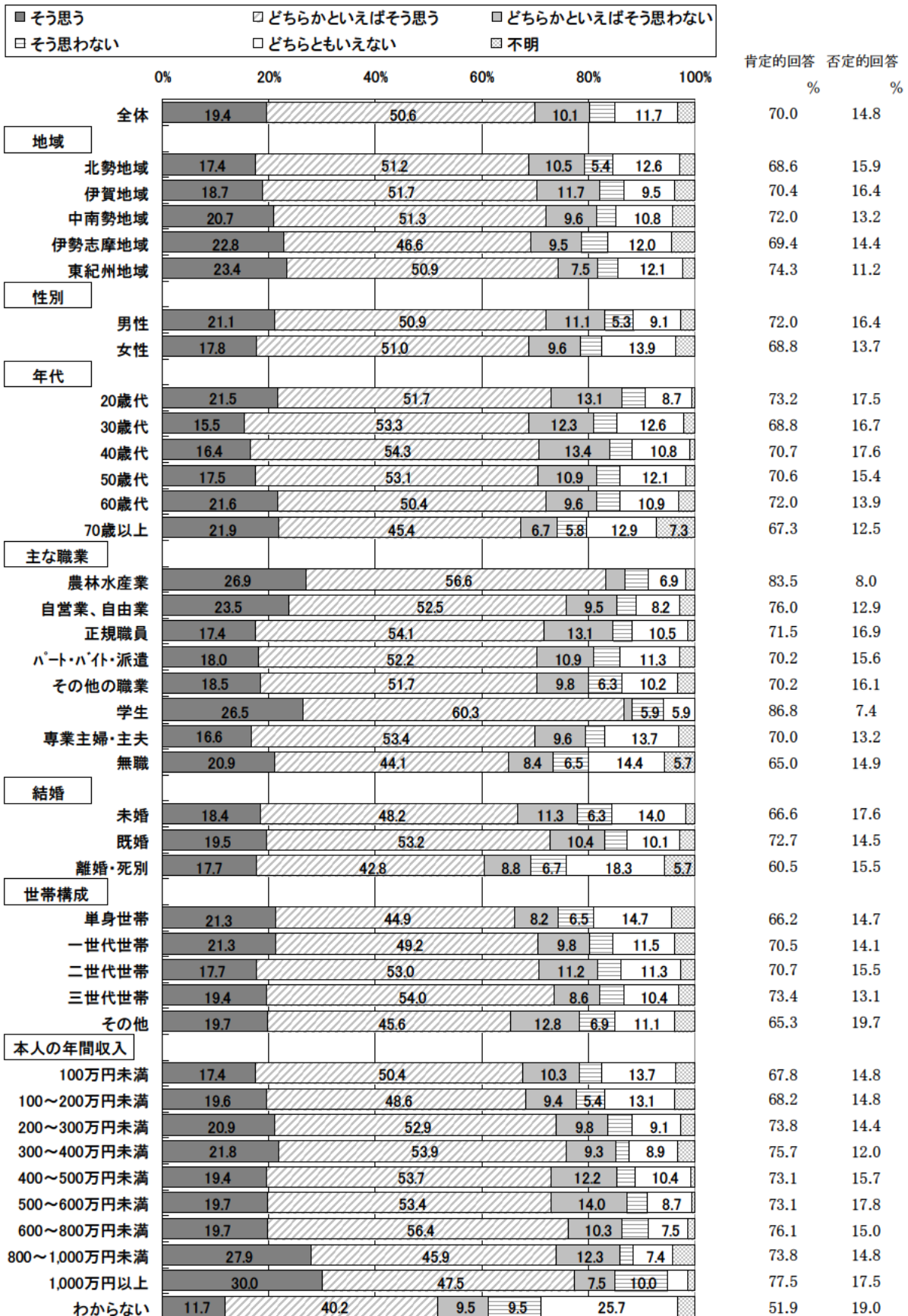
県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業は、「肯定的回答」の割合が83.5%で、県全体より13.5ポイント高くなっています。
- ・学生は、「肯定的回答」の割合が86.8%で、全体より16.8ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が1,000万円以上の層は「そう思う」の割合が30.0%で、県全体より10.6ポイント高くなっています

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・本人の年間収入別では、800万円以上の層は「そう思う」の割合が本人の年間収入別の層の中で高く、800万円から1,000万円未満の層が27.9%、1,000万円以上の層が30.0%となっています。

図表 2-4-1 地域や社会への貢献意欲



※「肯定的回答」の割合・・・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

**問4 - 2** あなたのご近所づきあいについておききします。次のア、イ、ウにあてはまるご近所の方の人数をお答えください。( はア、イ、ウにそれぞれ1つずつ。「1」に をつけた方は( )に人数も書いてください。おおよその人数でかまいません)

【近所づきあい ア 生活面で協力しあっている人の数】

近所づきあいのうち、『生活面で協力しあっている人』が何人いるかについて質問したところ、「いない」が51.4%と最も高く、次いで「2人」(14.6%)、「3人」(11.7%)となっています。

平均人数は1.6人となっています。

県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「いない」の割合が73.3%で、県全体より21.9ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「いない」の割合が65.3%で、県全体より13.9ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「いない」の割合が27.1%で、県全体より24.3ポイント低くなっています。
- ・正規職員の「いない」の割合が65.9%で、県全体より14.5ポイント高くなっています。
- ・学生の「いない」の割合が63.0%で、県全体より11.6ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が70.4%で、県全体より19.0ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が400万円から500万円の層の「いない」の割合が61.9%で、県全体より10.5ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が500万円から600万円の層の「いない」の割合が65.5%で、県全体より14.1ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が600万円から800万円の層の「いない」の割合が63.3%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「いない」の割合が55.3%と地域の中で最も高く、最も低い東紀州地域(43.1%)より12.2ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が若いほど「いない」の割合が高くなっています。

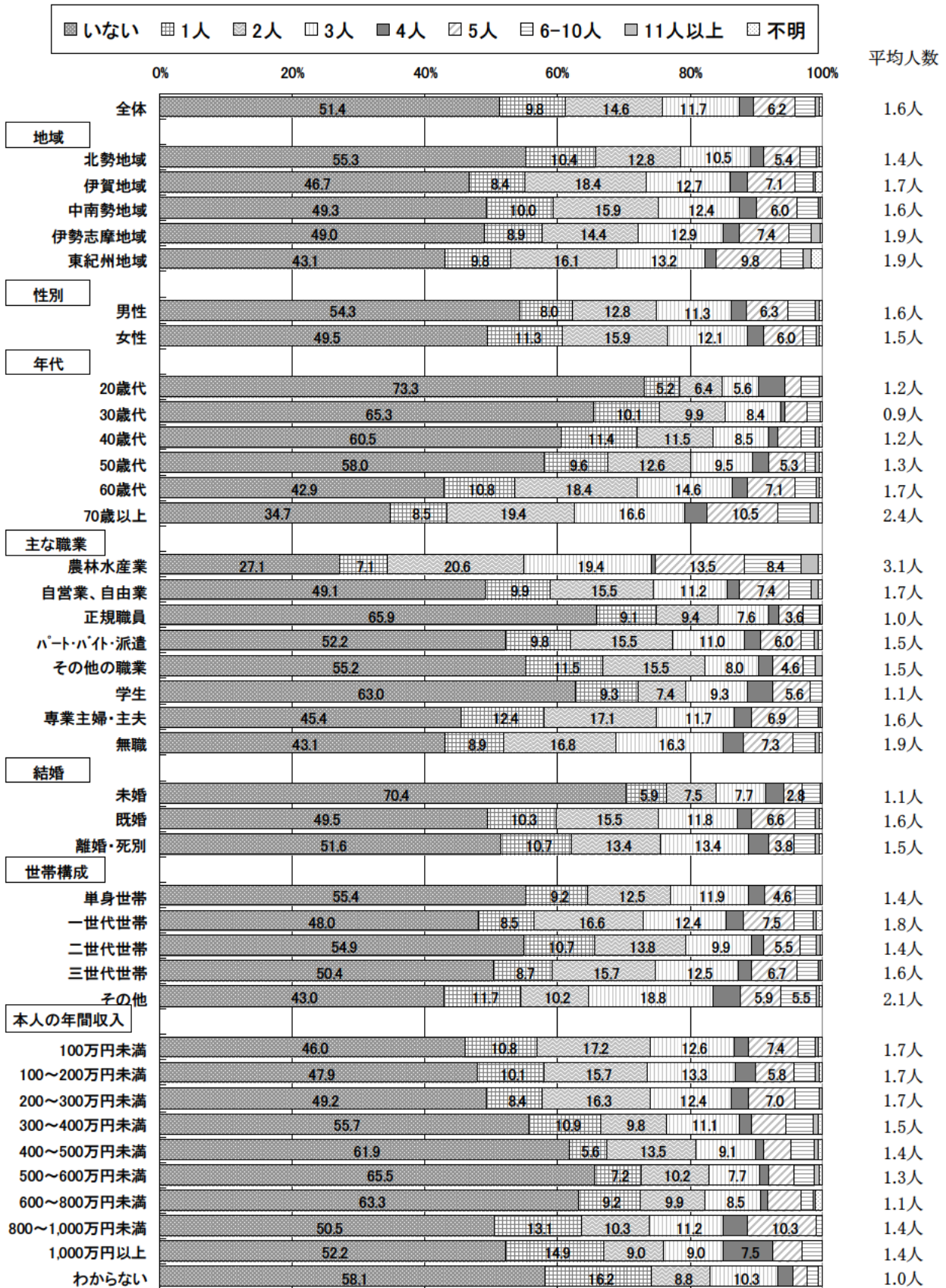
平均人数をみると、70歳以上は2.4人と年代別の中で唯一2人台である一方、30歳代は0.9人となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業は「いない」の割合が27.1%と職業の中で最も低く、2人以上の割合が他の職業に比べて高くなっています。

平均人数をみると、農林水産業は職業の中で唯一3人台となっています。

- ・結婚別では、未婚は「いない」の割合(70.4%)が既婚、離婚・死別に比べて約20ポイント高くなっています。

図表 2-4-2 近所づきあい(ア 生活面で協力しあっている人の数)



※【問4-2 ア生活面で協力しあっている人】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出  
 ※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

## 問4 - 2 続き

### 【近所づきあい イ 立ち話程度のつきあいの人の数】

近所づきあいのうち、『イ 立ち話や情報交換をする程度のつきあいの人』の数について質問したところ、「いない」の割合が22.6%と最も高く、次いで「5人」(16.7%)、「3人」(15.8%)、「2人」(13.9%)となっています。

平均人数は4.3人となっています。

県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「いない」の割合が59.4%で、県全体より36.8ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「いない」の割合が38.1%で、県全体より15.5ポイント高くなっています。
- ・70歳以上の「いない」の割合が8.7%で、県全体より13.9ポイント低くなっています。
- ・農林水産業の「9～10人」の割合が25.7%で、県全体より15.1ポイント高くなっています。
- ・正規職員の「いない」の割合が36.8%で、県全体より14.2ポイント高くなっています。
- ・学生の「いない」の割合が51.9%で、県全体より29.3ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が52.1%で、県全体より29.5ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が400万円から500万円の層の「いない」の割合が32.6%で、県全体より10.0ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が500万円から600万円の層の「いない」の割合が34.5%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「いない」の割合が24.9%と地域の中で最も高く、最も低い東紀州地域(14.0%)より10.9ポイント高くなっています。

平均人数をみると、北勢地域は3.9人で、地域の中で唯一4人未満となっています。

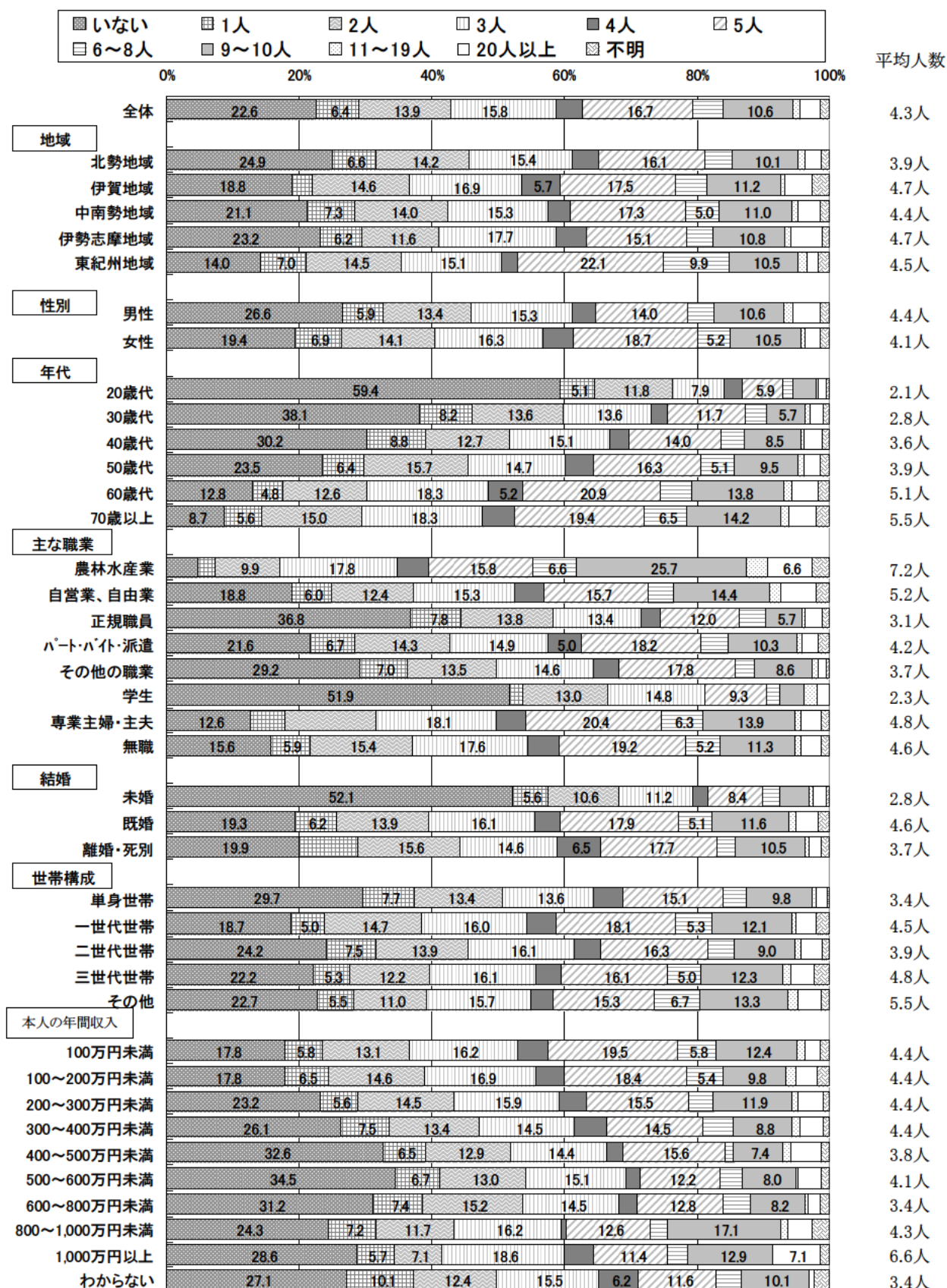
- ・年代別では、年代が若いほど「いない」の割合が高くなっています。

平均人数をみると、年代が高くなるほど平均人数も多くなり、20歳代は2.1人であるのに対し、60歳代以上は5人台となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業の平均人数は7.2人と職業の中で最も多く、学生は2.3人と最も少なくなっています。
- ・本人の年間収入別では、600万円未満の層でみると本人の年間収入額が高くなるほど「いない」の割合が高くなっています。

平均人数をみると、1,000万円以上の層は6.6人と本人の年間収入別の層の中で最も多くなっています。

図表 2-4-3 近所づきあい(イ 立ち話程度のつきあいの人の数)



※【問4-2 イ立ち話程度のつきあいの人の数】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出  
 ※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

## 同4 - 2 続き

### 【近所づきあい ウ あいさつ程度のつきあいの人の数】

近所づきあいのうち、『ウ あいさつ程度の最小限のつきあいの人』の数について質問したところ、「9～10人」の割合が22.2%となっており、次いで「5人」(18.5%)、「3人」(12.2%)となっています。

平均人数は10.0人となっています。

県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「いない」の割合が22.6%で、県全体より16.0ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「30人以上」の割合が19.7%で、県全体より13.7ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が21.2%で、県全体より14.6ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、平均人数をみると、東紀州地域は7.9人で、地域の中で最も少なくなっています。
- ・性別では、平均人数をみると、男性(11.5人)は、女性(8.8人)より2.7人多くなっています。
- ・年代別では、60歳代以下でみると年代が高くなるほど「いない」の割合が低くなっている一方、「9～10人」の割合が高くなっています。

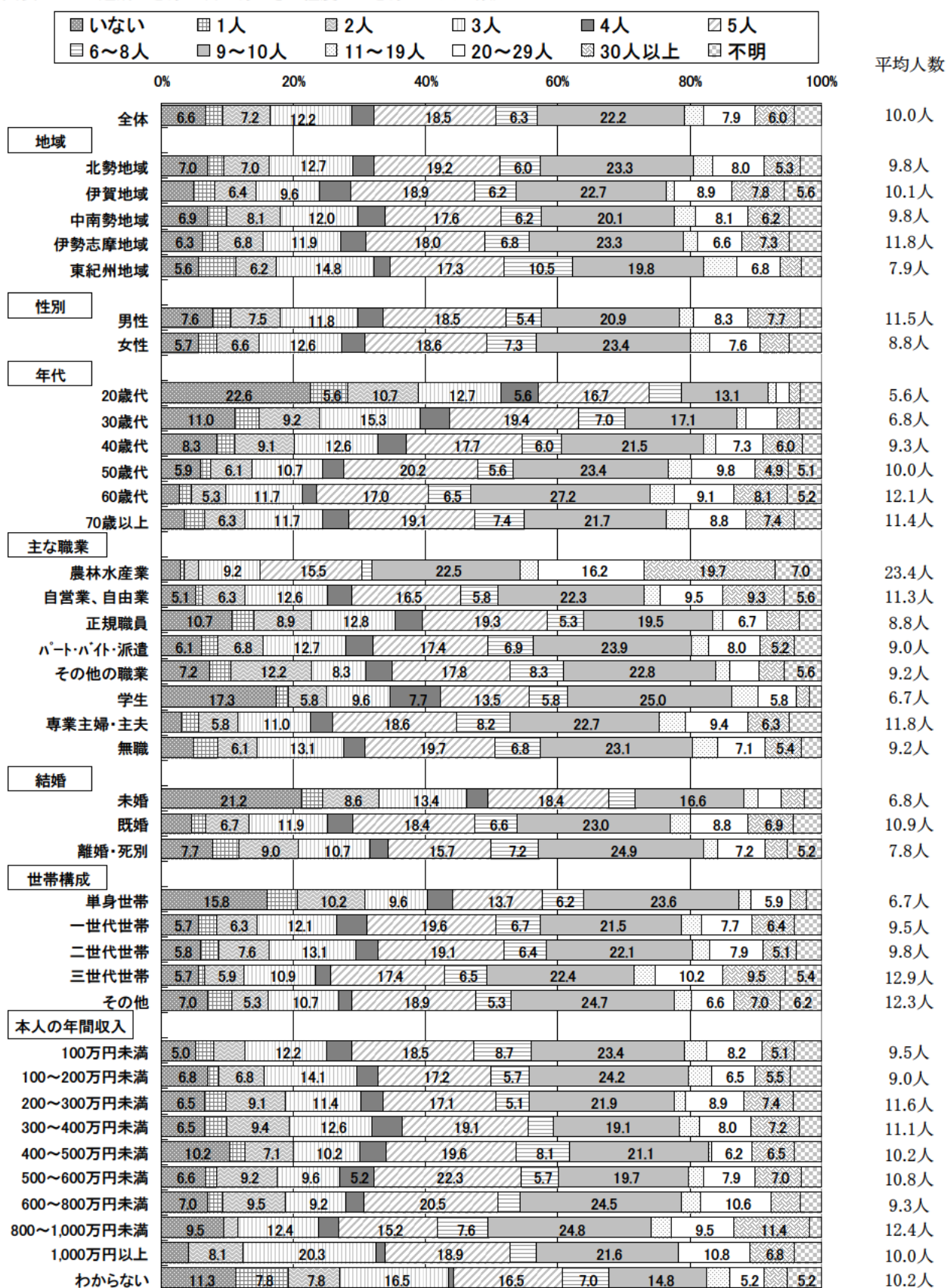
平均人数をみると、60歳代以下では、年代が高くなるほど平均人数が多くなっており、20歳代は5.6人となっているのに対し、60歳代は12.1人となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業の平均人数は、23.4人と他の職業に比べて10人以上多くなっています。
- ・世帯構成別でみると、単身世帯は、「いない」の割合が他の世帯構成に比べて約10ポイント高くなっています。

平均人数をみると、世帯を構成する世代数が多くなるほど平均人数も多くなっています。



図表 2-4-4 近所づきあい(ウ あいさつ程度のつきあいの人の数)



※【問4-2 ウあいさつ程度のつきあいの人】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出  
 ※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

**問4 - 3** あなたの地域における活動についておききします。あなたは現在、次のような活動に参加されていますか。参加の度合いについて近いものに をつけてください。( はア、イ、ウ、エにそれぞれ1つずつ、合計4つ)

【地域活動への参加の度合い ア 町内会、自治会の活動】

地域における活動のうち、『ア 町内会、自治会の活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が61.3%で、「参加していない」の割合(33.6%)より高くなっています。

選択肢別では、「年に数回程度」が45.3%と最も高く、次いで「参加していない」(33.6%)、「月に1日程度」(11.0%)となっています。

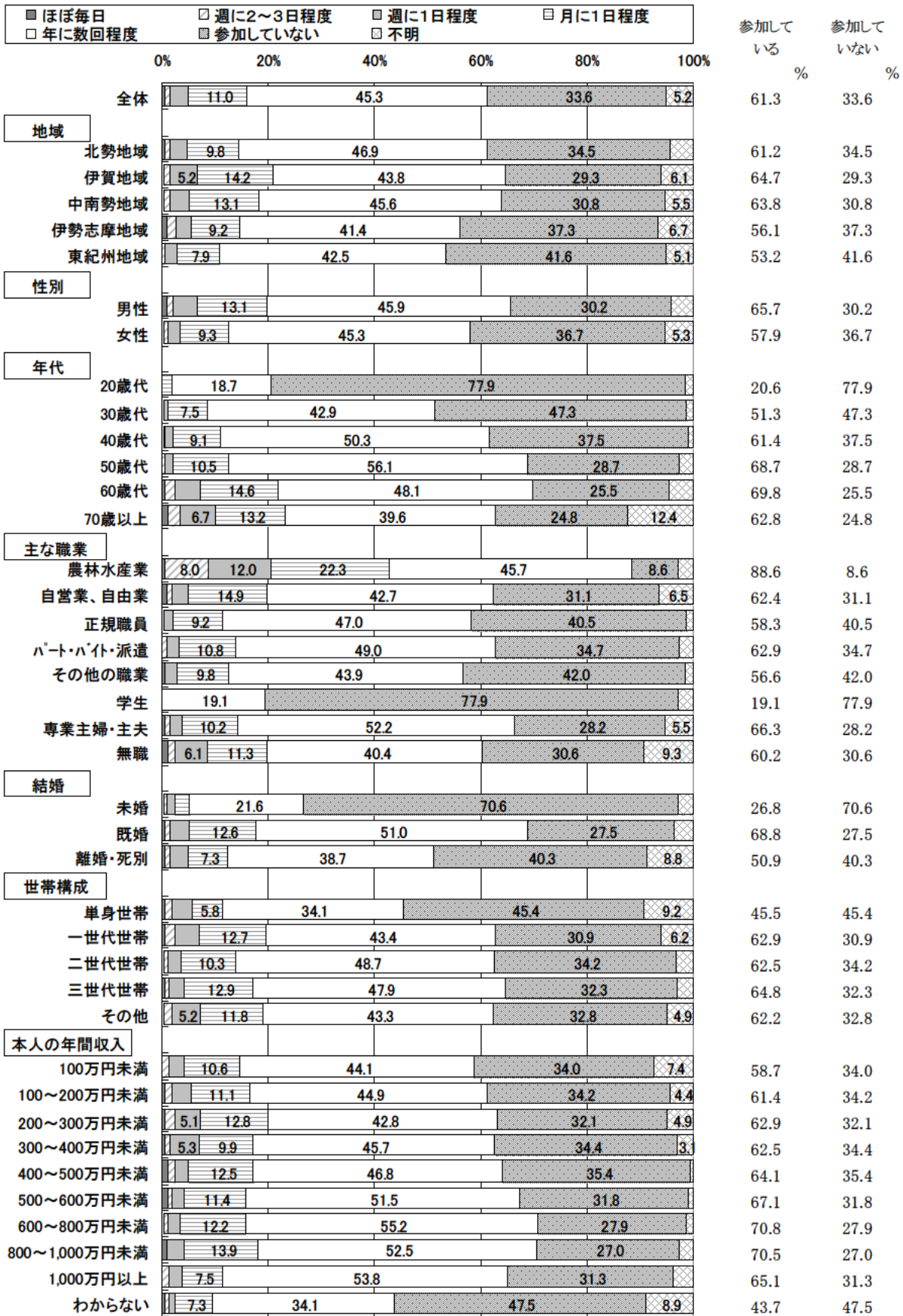
県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が77.9%で、県全体より44.3ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が47.3%で、県全体より13.7ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が88.6%で、県全体より27.3ポイント高くなっています。一方、「参加していない」の割合は8.6%で、県全体より25.0ポイント低くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が70.6%で、県全体より37.0ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「参加している」の割合が53.2%で、地域の中で最も低くなっています。一方、伊賀地域は「参加している」の割合(64.7%)が地域の中で最も高く、東紀州地域より11.5ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が若くなるほど「参加していない」の割合が高く、70歳以上は24.8%となっているのに対し、20歳代は77.9%となっています。
- ・主な職業別では、学生以外の職業では「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。特に農林水産業は「参加している」の割合が88.6%で、そのうち「週に2～3日程度」(8.0%)、「週に1日程度」(12.0%)、「月に1日程度」(22.3%)の割合が他の職業に比べて高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「参加していない」の割合が70.6%で、「参加している」の割合より高くなっています。一方、既婚、離婚・死別は「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。
- ・世帯構成別では、単身世帯以外の世帯では「参加している」の割合が6割以上となっています。一方、単身世帯は「参加している」の割合(45.5%)と「参加していない」(45.4%)がほぼ同率となっています。

図表 2-4-5 地域活動への参加の度合い(ア 町内会、自治会の活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

## 同4 - 3 続き

### 【地域活動への参加の度合い イ スポーツ・趣味・娯楽活動】

地域における活動のうち、『イ スポーツ・趣味・娯楽活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が31.1%で、「参加していない」の割合(62.2%)より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が62.2%と最も高く、次いで「年に数回程度」(10.5%)、「週に一日程度」(7.8%)となっています。

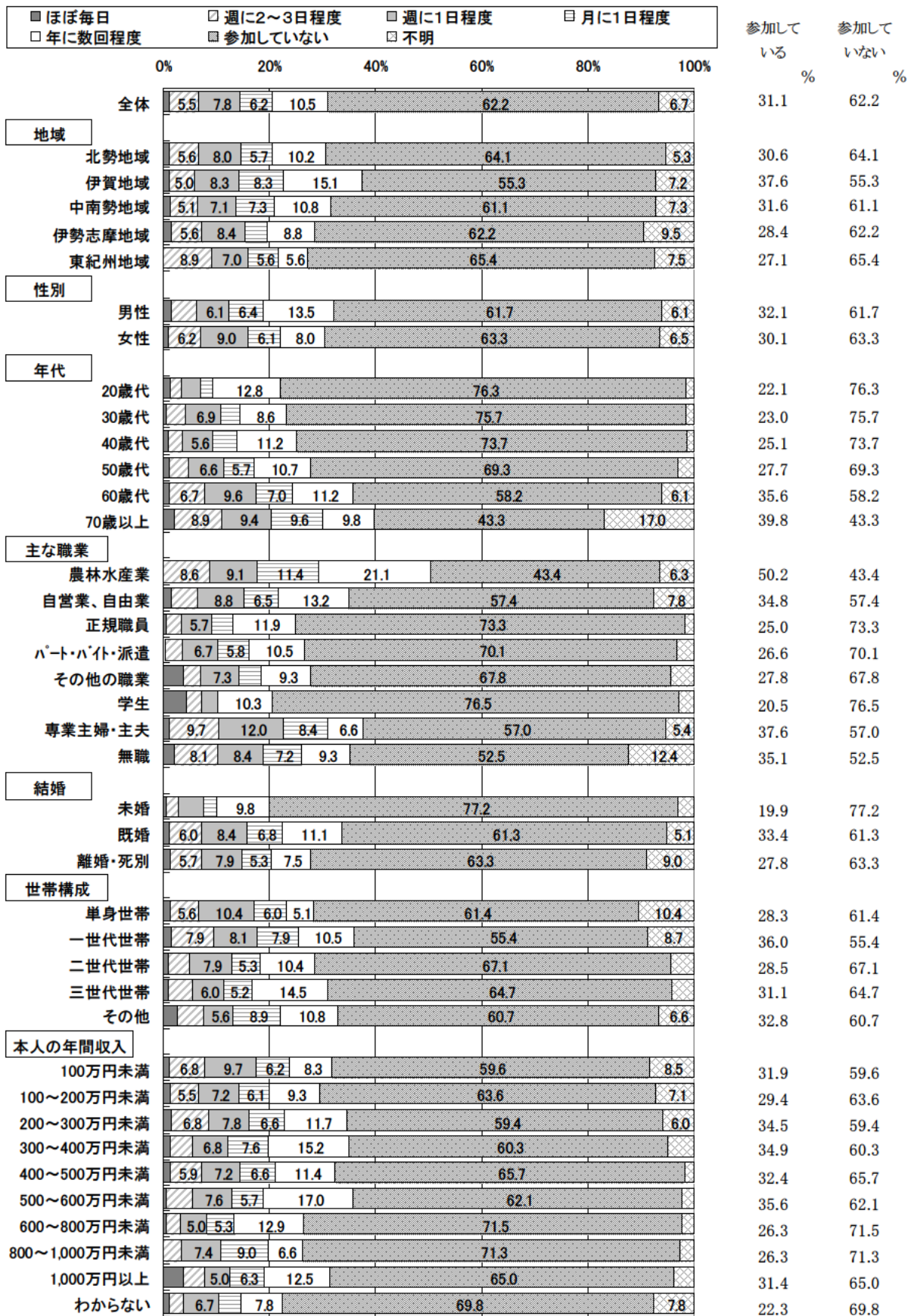
県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が76.3%で、県全体より14.1ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が50.2%、そのうち「年に数回程度」の割合が21.1%で、県全体よりそれぞれ19.1ポイント、10.6ポイント高くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が77.2%で、県全体より15.0ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「参加している」の割合が27.1%と最も低くなっています。伊賀地域は「参加している」の割合が37.6%と地域の中で最も高く、東紀州地域より10.5ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「参加している」の割合が高く、20歳代は22.1%であるのに対し、70歳以上は39.8%となっています。
- ・主な職業別では、農林水産業だけが「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「参加していない」の割合が77.2%で、既婚、離婚・死別より10ポイント以上高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、600万円から1,000万円未満の層は「参加していない」の割合がそれぞれ71%台で、他の本人の年間収入別の層に比べて高くなっています。

図表 2-4-6 地域活動への参加の度合い(イ スポーツ・趣味・娯楽活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

## 同4 - 3 続き

### 【地域活動への参加の度合い ウ 市民・ボランティア・NPO 活動】

地域における活動のうち、『ウ 市民・ボランティア・NPO 活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が21.7%で、「参加していない」の割合(71.0%)より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が71.0%と最も高く、次いで「年に数回程度」(13.8%)となっています。

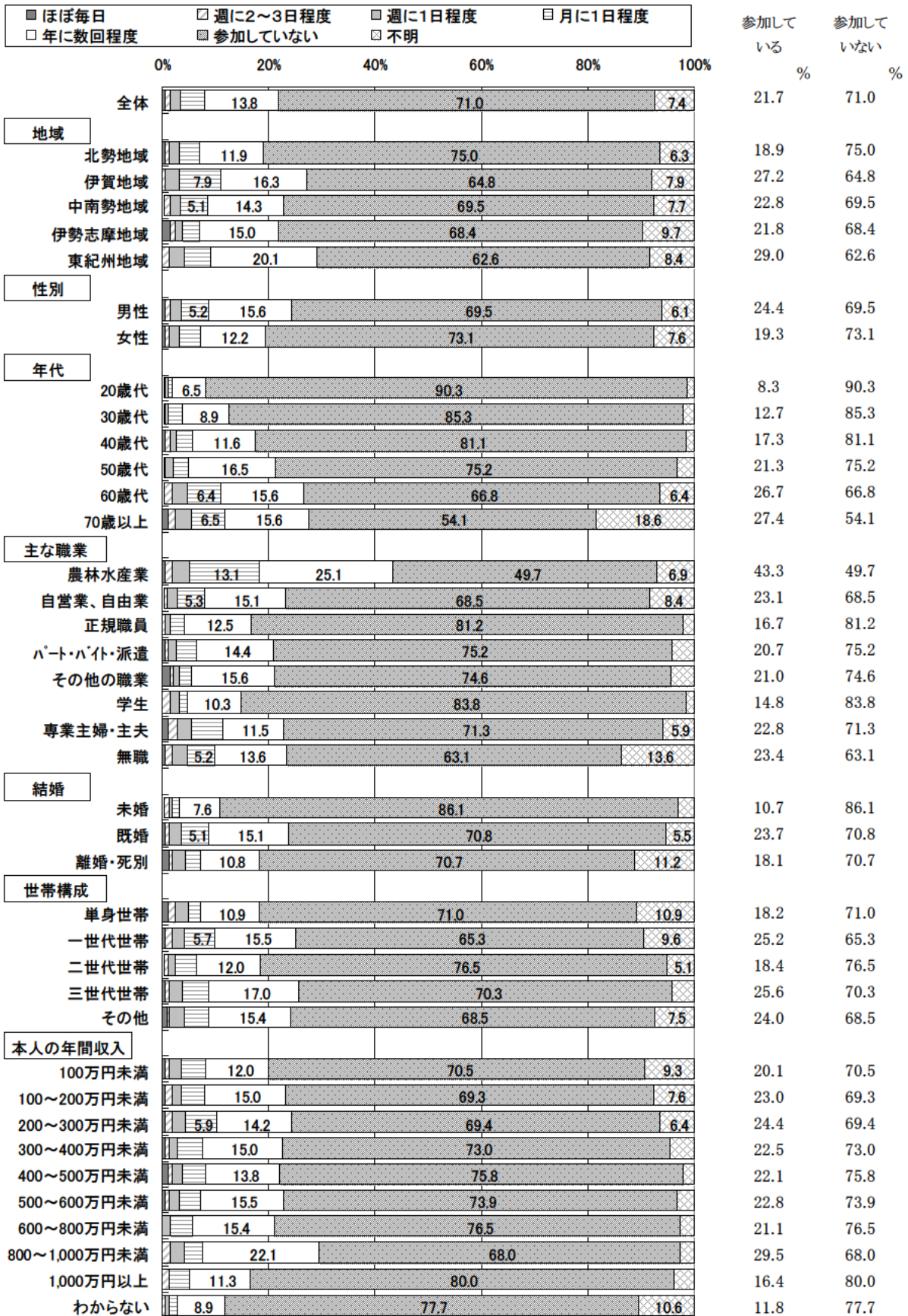
県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が90.3%で、県全体より19.3ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が85.3%で、県全体より14.3ポイント高くなっています。
- ・40歳代の「参加していない」の割合が81.1%で、県全体より10.1ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が43.3%、そのうち「年に数回程度」の割合が25.1%で、県全体よりそれぞれ21.6ポイント、11.3ポイント高くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が86.1%で、県全体より15.1ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「参加している」の割合が18.9%と最も低くなっています。一方、東紀州地域は「参加している」の割合が29.0%と地域の中で最も高く、北勢地域より10.1ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「参加している」の割合が高く、20歳代は8.3%であるのに対し、70歳以上は27.4%となっています。
- ・主な職業別では、正規職員、学生は「参加していない」の割合がそれぞれ81.2%、83.8%と他の職業に比べて高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、800万円から1,000万円未満の層は「参加している」の割合が29.5%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、最も低い1,000万円以上の層(16.4%)より13.1ポイント高くなっています。

図表 2-4-7 地域活動への参加の度合い(ウ 市民・ボランティア・NPO 活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

## 同4 - 3 続き

### 【地域活動への参加の度合い エ その他の地縁活動】

地域における活動のうち、『エ その他の地縁活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が42.2%で、「参加していない」の割合（51.5%）より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が51.5%と最も高く、次いで「年に数回程度」（33.4%）となっています。

県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

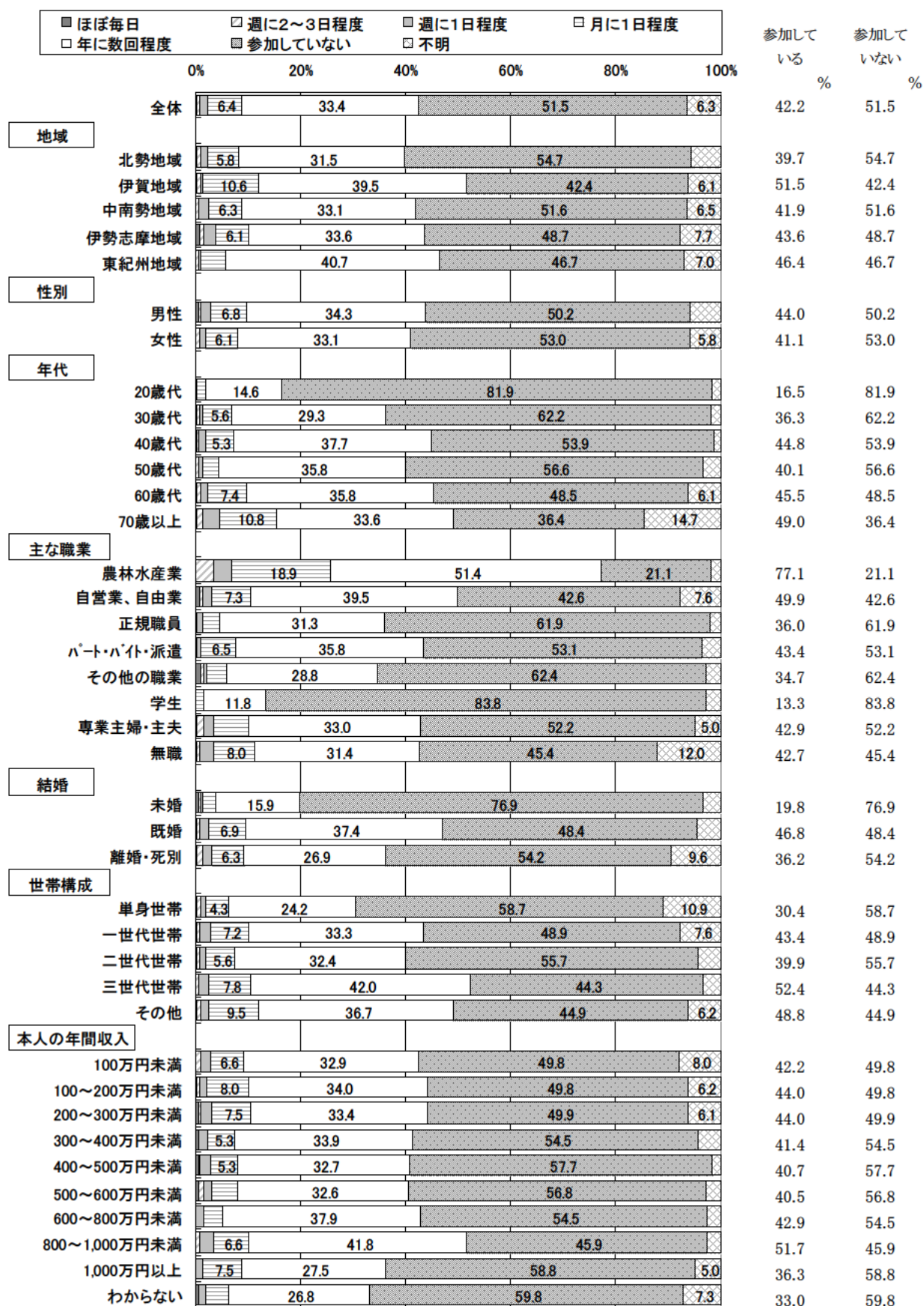
- ・20歳代の「参加していない」の割合が81.9%で、県全体より30.4ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が62.2%で、県全体より10.7ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が77.1%、そのうち「月に1日程度」の割合が18.9%、「年に数回程度」の割合が51.4%で、県全体よりそれぞれ34.9ポイント、12.5ポイント、18.0ポイント高くなっています。
- ・正規職員は「参加していない」の割合が61.9%で、県全体より10.4ポイント高くなっています。
- ・学生は「参加していない」の割合が83.8%で、県全体より32.3ポイント高くなっています。
- ・未婚は「参加していない」の割合が76.9%で、県全体より25.4ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、伊賀地域だけが「参加している」の割合（51.5%）が「参加していない」の割合（42.4%）より高くなっています。
- ・年代別では、70歳以上だけが「参加している」の割合（49.0%）が「参加していない」の割合（36.4%）より高くなっています。
- ・結婚別では、既婚は「参加している」の割合が46.8%で、未婚（19.8%）より27.0ポイント、離婚・死別（36.2%）より10.6ポイント高くなっています。
- ・世帯構成別では、特に単身世帯の「参加している」の割合が低くなっています。三世帯世帯だけが「参加している」の割合（52.4%）が「参加していない」の割合（44.3%）より高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、1,000万円以上の層は「参加している」の割合が36.3%と本人の年間収入別の層の中で最も低くなっています。800万円から1,000万円未満の層は「参加している」の割合が51.7%で、「参加していない」の割合（45.9%）より高くなっています。



図表 2-4-8 地域活動への参加の度合い(エ その他の地縁活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

**問4-4** あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

**【地域の住みやすさ】**

○お住まいの地域が住みやすいか質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が 79.8%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の割合を合計した「否定的回答」の割合（12.8%）より 67.0 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「肯定的回答」の割合、「否定的回答」の割合ともに、それぞれ 0.2 ポイント、0.3 ポイント低くなっています。

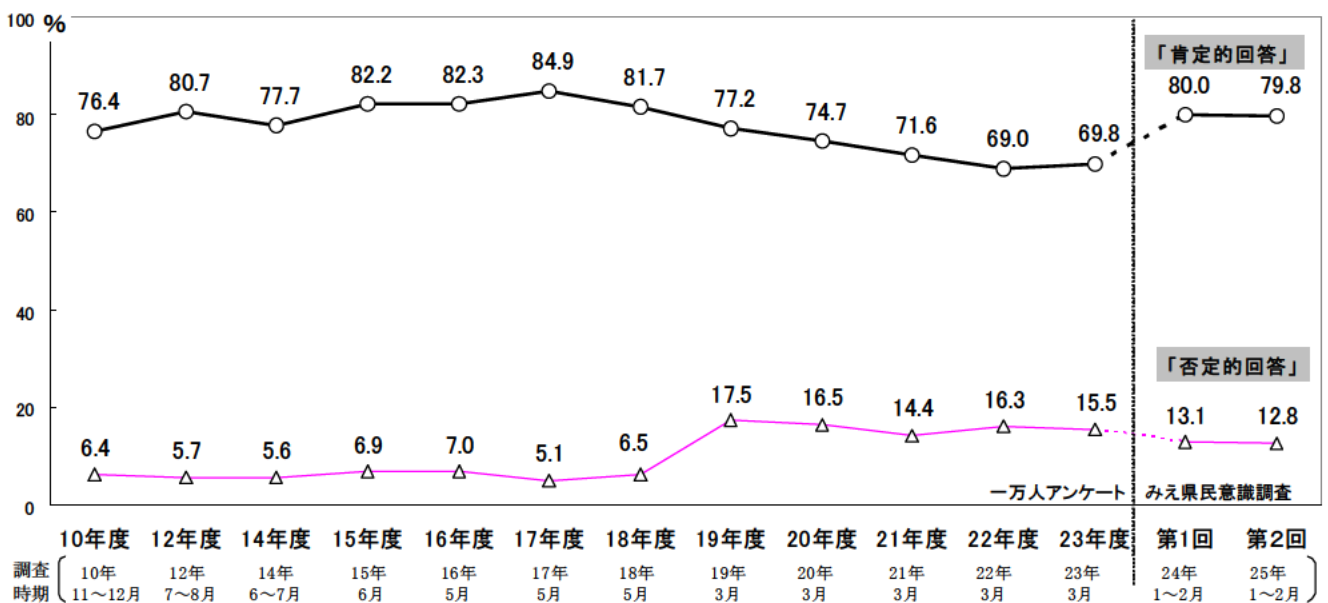
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・学生は「住みやすい」の割合が 38.2%で、県全体より 11.5 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層は「住みやすい」の割合が 38.8%で、県全体より 12.1 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、伊賀地域は「肯定的回答」の割合が 71.8%、そのうち「住みやすい」の割合が 18.7% となっており、地域の中でそれぞれ最も低くなっています。
- ・年代別では、20 歳代、70 歳以上の「住みやすい」の割合が 35.2%、32.9%で、他の年代に比べて高くなっています。
- ・主な職業別では、パート・アルバイト・派遣社員は「肯定的回答」の割合が 74.9%、そのうち「住みやすい」の割合が 21.9%で、職業の中でそれぞれ最も低くなっています。

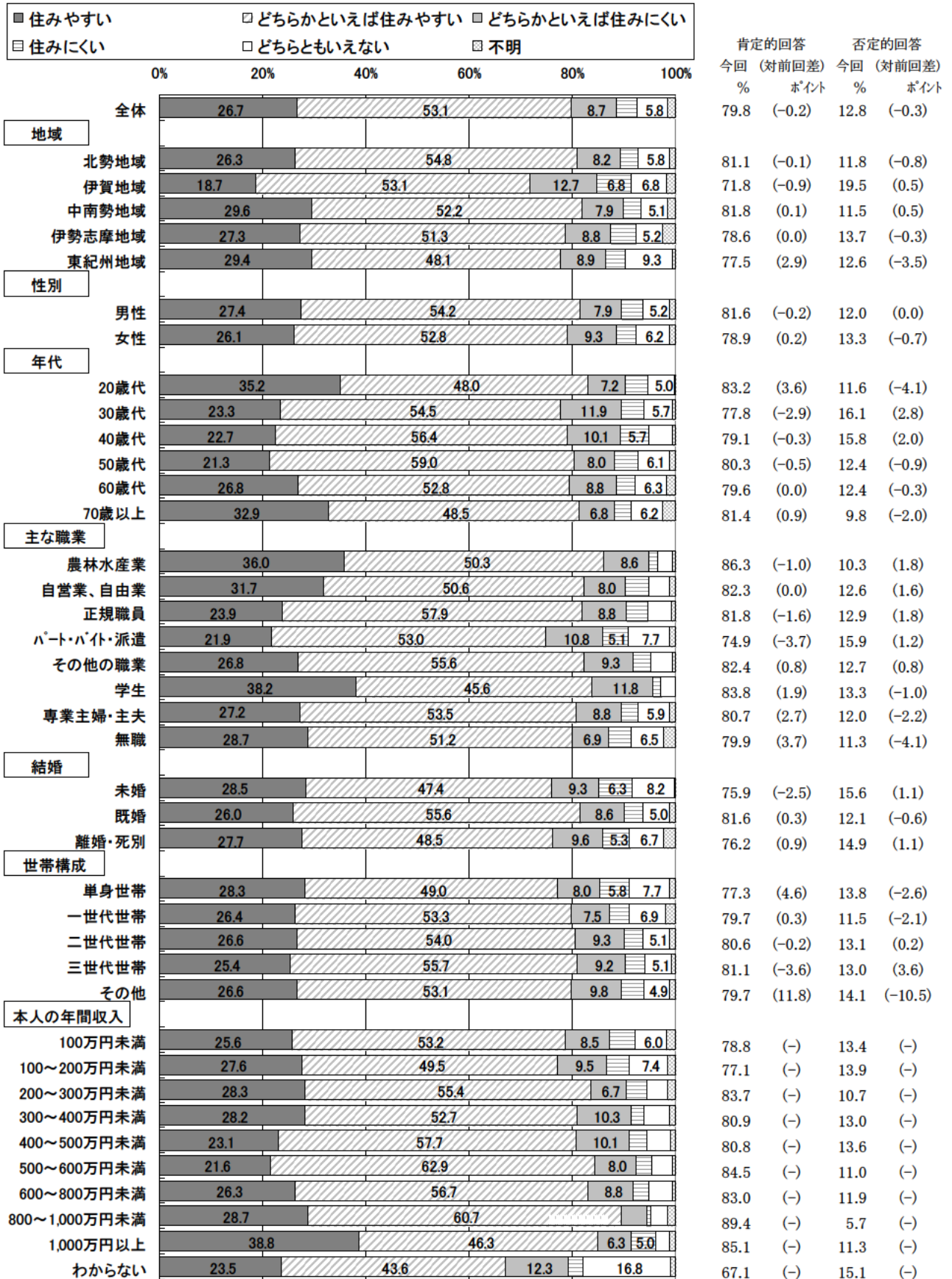
図表 2-4-9 (参考)一万人アンケート (23 年度まで) とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



※一万人アンケートにおける「肯定的回答」…「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。

※一万人アンケートにおける「否定的回答」…「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計したもの。

図表 2-4-10 地域の住みやすさ



※「肯定的回答」の割合・・・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

**問4 - 5** 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。( は1つだけ)

**【男女の役割分担意識】**

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか質問したところ、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が33.2%で、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合を合計した「否定的回答」の割合(32.7%)よりわずかに高くなっています。また「どちらともいえない」の割合も32.1%とほぼ同率となっています。

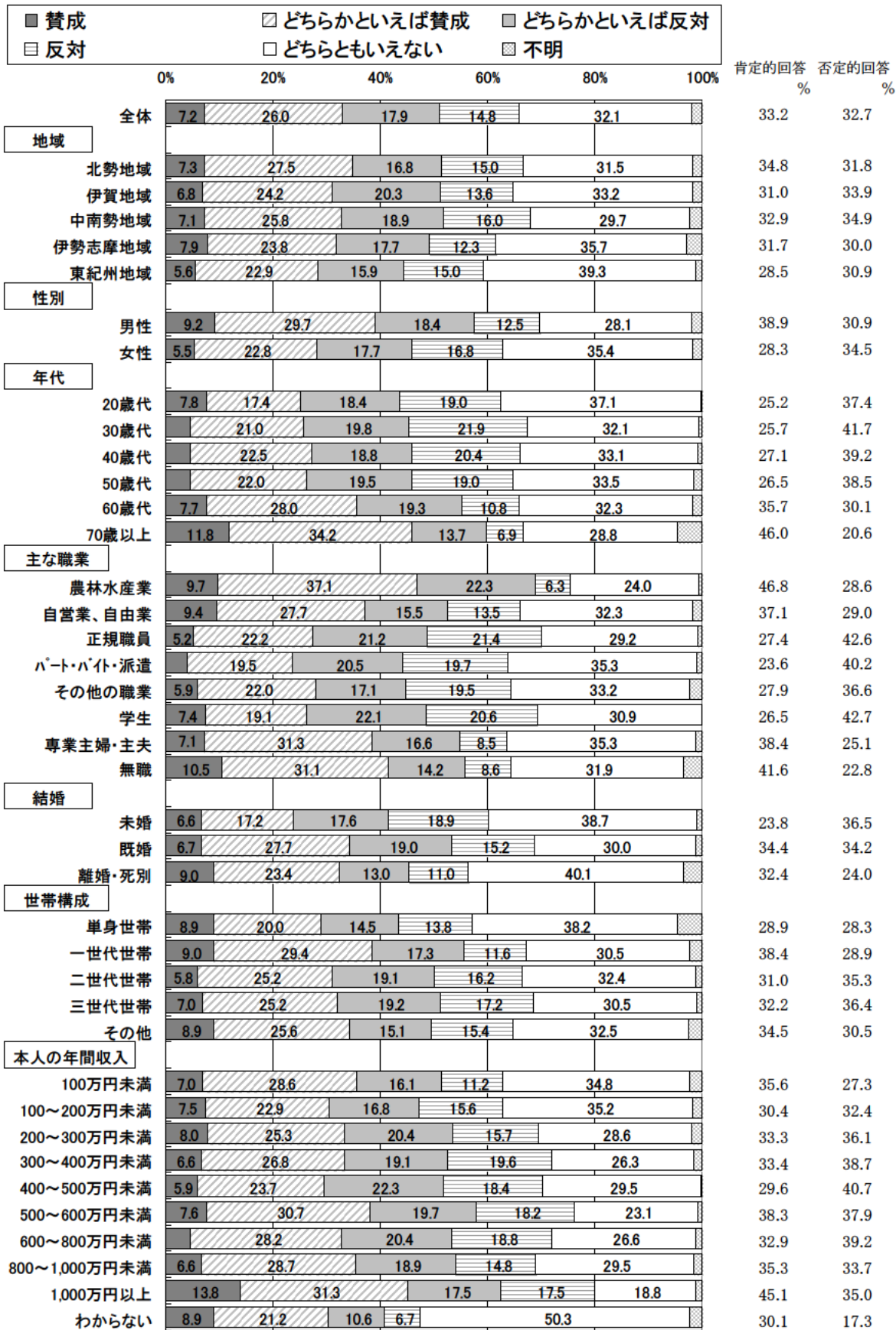
県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・70歳以上の「肯定的回答」の割合が46.0%で、県全体より12.8ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「肯定的回答」の割合が46.8%で、県全体より13.6ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が1,000万円以上の層の「肯定的回答」の割合が45.1%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性は「肯定的回答」の割合が38.9%で、女性(28.3%)より10.6ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「肯定的回答」の割合が高くなる傾向にあり、特に70歳以上は「肯定的回答」の割合が46.0%で、「否定的回答」の割合(20.6%)より25.4ポイント高くなっています。
- ・職業別では、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、学生は「否定的回答」の割合が「肯定的回答」の割合よりそれぞれ15ポイント以上高くなっています。
- ・結婚別では、未婚だけが「否定的回答」の割合(36.5%)が「肯定的回答」の割合(23.8%)より高くなっています。
- ・世帯構成別では、単身世帯、一世代世帯は「肯定的回答」の割合が「否定的回答」の割合より高く、二世帯世帯、三世帯世帯は「否定的回答」の割合が「肯定的回答」の割合より高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、1,000万円以上の層は「肯定的回答」の割合が45.1%、そのうち「賛成」の割合が13.8%で、本人の年間収入別の層の中でそれぞれ最も高くなっています。

図表 2-4-11 男女の役割分担意識



※「肯定的回答」の割合・・・「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「反対」「どちらかといえば反対」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

**問4 - 6** 女性が働く（収入のある仕事をする）ことについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。（は1つだけ）

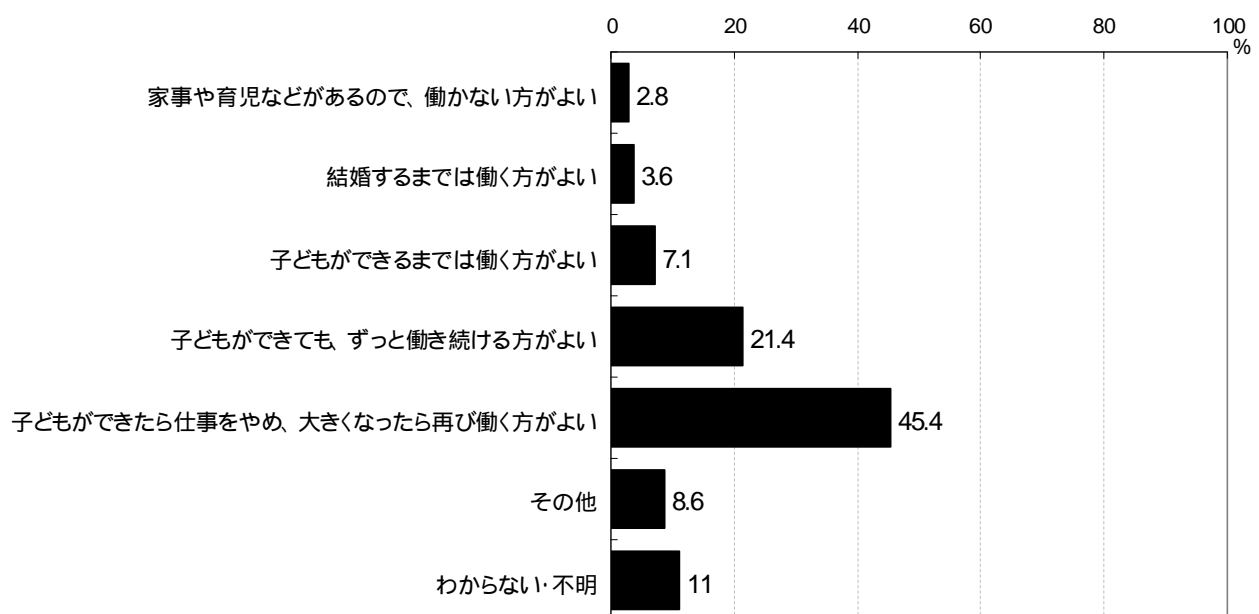
【女性就労に対する考え方】

女性が働くことについてどう思うか質問したところ、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」が45.4%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」（21.4%）となっています。

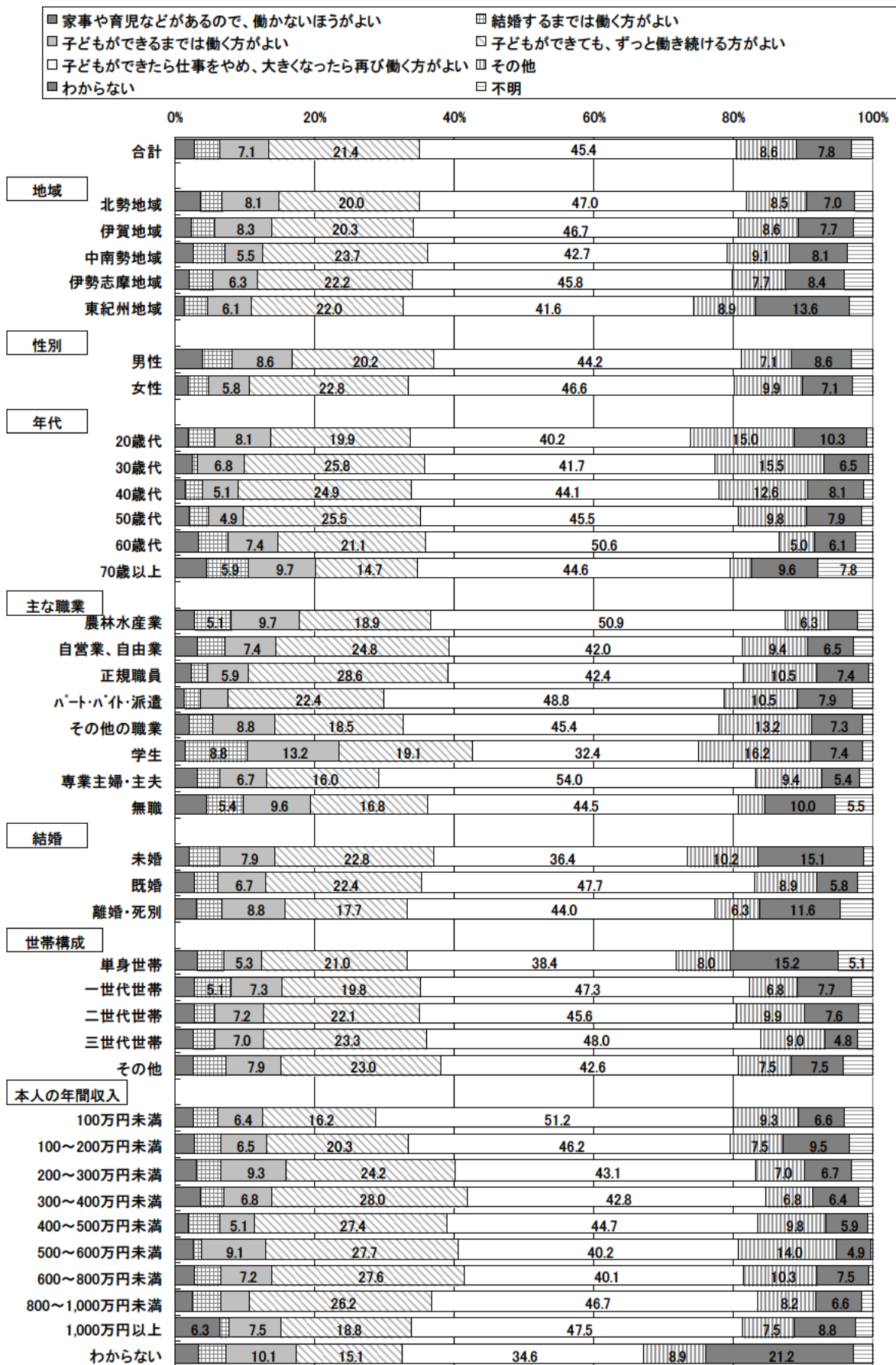
属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・主な職業別では、専業主婦・主夫は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が54.0%、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が16.0%となっています。正規職員は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が42.4%、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が28.6%となっています。
- ・結婚別では、未婚は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が36.4%で、既婚、離婚・死別に比べて低くなっています。
- ・本人の年間収入別では、100万円未満の層は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が51.2%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が16.2%と最も低くなっています。

図表2-4-12 女性就労に対する考え方



図表 2-4-13 女性就労に対する考え方



**問4 - 7** あなたは1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。平日と休日に分けてお答えください。（ は1つずつ。「1」に つけた方は（ ）に時間も書いてください。おおよその時間でかまいません。）

【家事や育児、介護の時間（平日）】

平日の家事や育児、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が63.0%、「ほとんどしない」の割合が23.7%となっています。

また、平均時間は2時間50分となっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性は「ほとんどしない」の割合が「する」の割合より高く、女性は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。女性の「する」の割合は81.0%で、男性（42.8%）より、38.2ポイント高くなっています。

平均時間をみると、女性は4時間25分である一方、男性は58分となっています。

- ・年代別では、20歳代以外の年代は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。30歳代以上の年代でみると、年代が若くなるほど「する」の割合が高くなる傾向にあります。

平均時間をみると、30歳代は4時間13分と年代の中で最も長く、20歳代は1時間40分で最も短くなっています。

- ・主な職業別では、学生以外の職業は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。専業主婦・主夫、パート・アルバイト・派遣社員は「する」の割合がそれぞれ88.1%、77.1%と他の職業に比べて高くなっています。

平均時間をみると、専業主婦・主夫は6時間28分と職業の中で最も長く、学生は33分と最も短くなっています。

- ・結婚別では、既婚、離婚・死別は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。一方、未婚は「ほとんどしない」の割合が44.9%と「する」の割合（39.1%）より高くなっています。

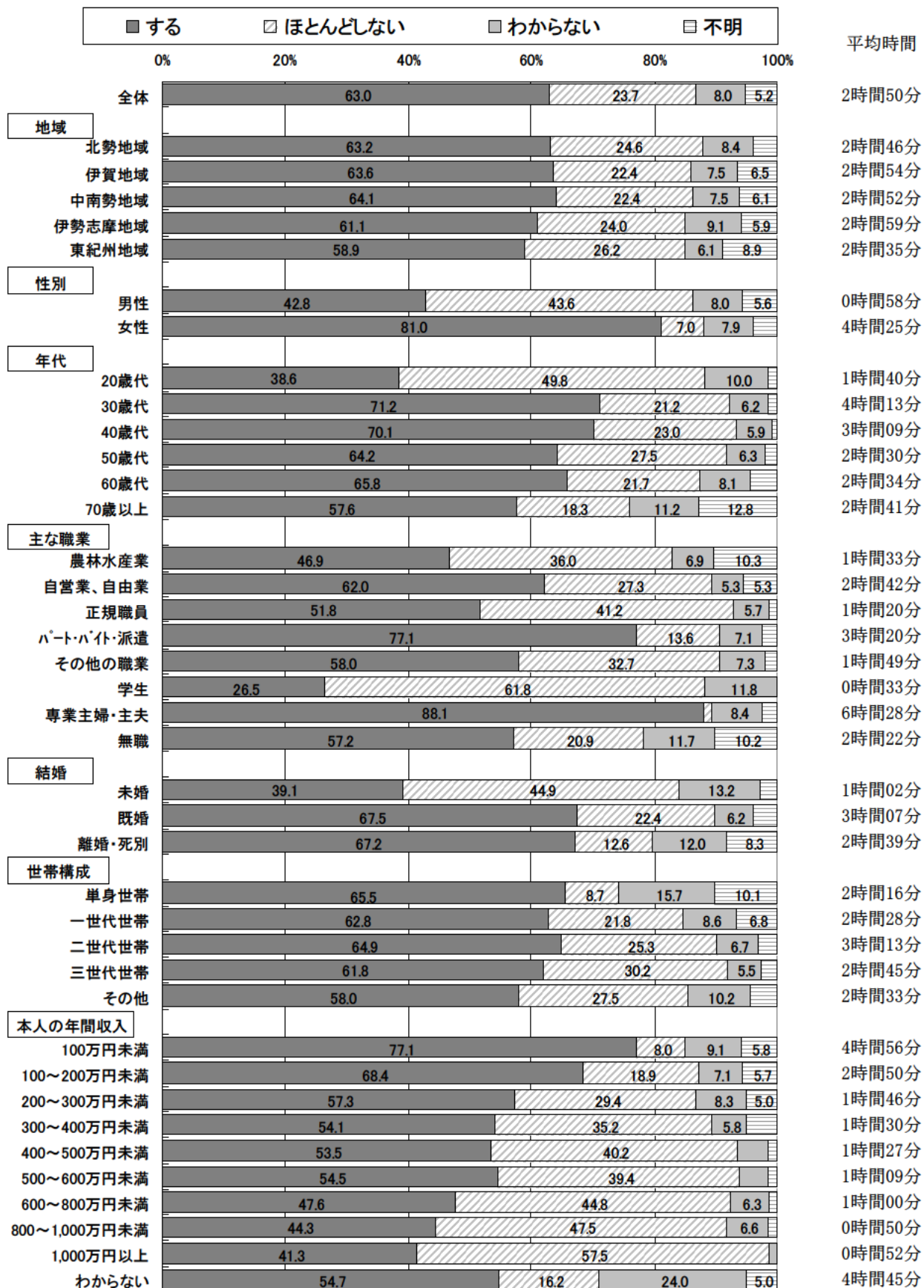
平均時間をみると、未婚は1時間02分と既婚、離婚・死別に比べて短くなっています。

- ・本人の年間収入別では、年間収入額が高くなるほど「ほとんどしない」の割合が高くなる傾向となっています。

平均時間は本人の年間収入額が高くなるほど短くなっています。



図表 2-4-14 家事や育児、介護の時間【平日】



※【問4-7 家事や育児、介護の時間【平日】】で「1する」または「2ほとんどしない」と回答した人を対象に平均値を算出  
 ※平均値については、「2ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「1いる」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

## 同4 - 7 続き

### 【家事や育児、介護の時間（休日）】

休日の家事や育児、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が 64.4%、「ほとんどしない」の割合が 19.9%となっています。

また、平均時間は 3 時間 25 分となっており、平日の平均時間（2 時間 50 分）より 35 分長くなっています。

属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性、女性ともに「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっていますが、女性の「する」の割合は 78.6%で、男性（48.7%）より、29.9 ポイント高くなっています。平均時間をみると、女性は 4 時間 59 分である一方、男性は 1 時間 35 分となっています。
- ・年代別では、30 歳代以上の年代でみると、年代が若くなるほど「する」の割合が高くなっており、30 歳代は「する」の割合が 76.3%となっています。一方、20 歳代は「する」の割合が 44.5%で、年代の中で最も低くなっています。

平均時間をみると、30 歳代、40 歳代がそれぞれ 5 時間 41 分、4 時間 18 分と他の年代に比べて長く、また平日の平均時間に比べてそれぞれ 1 時間以上長くなっています。

- ・主な職業別では、学生以外の職業は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。専業主婦・主夫、パート・アルバイト・派遣社員は「する」の割合がそれぞれ 84.2%、78.0%と他の職業に比べて高くなっています。

平日と比較すると、正規職員の「する」の割合が 64.6%で、平日（51.8%）より 12.8 ポイント高くなっています。

平均時間をみると、専業主婦・主夫が 6 時間 18 分と最も長くなっていますが、平日（6 時間 28 分）と比較するとわずかながら短くなっています。一方、正規職員が 2 時間 47 分で、平日（1 時間 20 分）より 1 時間以上長くなっています。

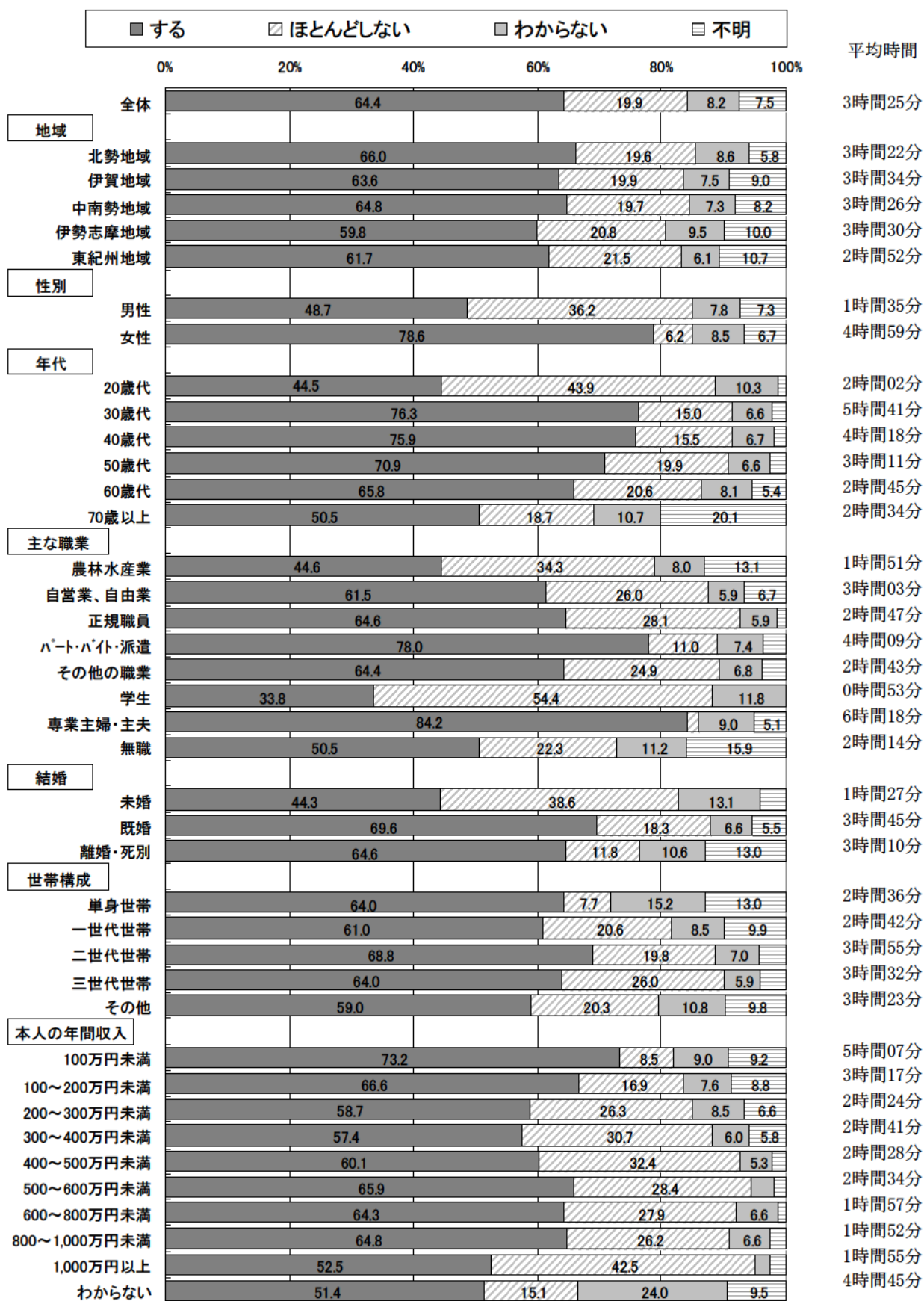
- ・結婚別では、既婚、離婚・死別は「する」の割合がそれぞれ 69.6%、64.6%である一方、未婚は 44.3%で、20 ポイント以上低くなっています。

平均時間をみると、未婚は 1 時間 27 分で、既婚、離婚・死別と比べて短くなっています。

- ・本人の年間収入別では、100 万円未満の層は「する」の割合が 73.2%と本人の年間収入別の層の中で最も高くなっているのに対し、1,000 万円以上の層は 52.5%と最も低くなっています。平日と比較すると、500 万円以上の層は、「する」の割合が平日に比べてそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。

平均時間をみると、100 万円未満の層が 5 時間 7 分と最も長くなっています。平日と比較すると、300 万円以上の層の多くで 1 時間以上長くなっています。

図表 2-4-15 家事や育児、介護の時間【休日】



※【問 4-7 家事や育児、介護の時間【休日】】で「1する」または「2ほとんどしない」と回答した人を対象に平均値を算出。  
 ※平均値については、「2ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「1いる」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出。